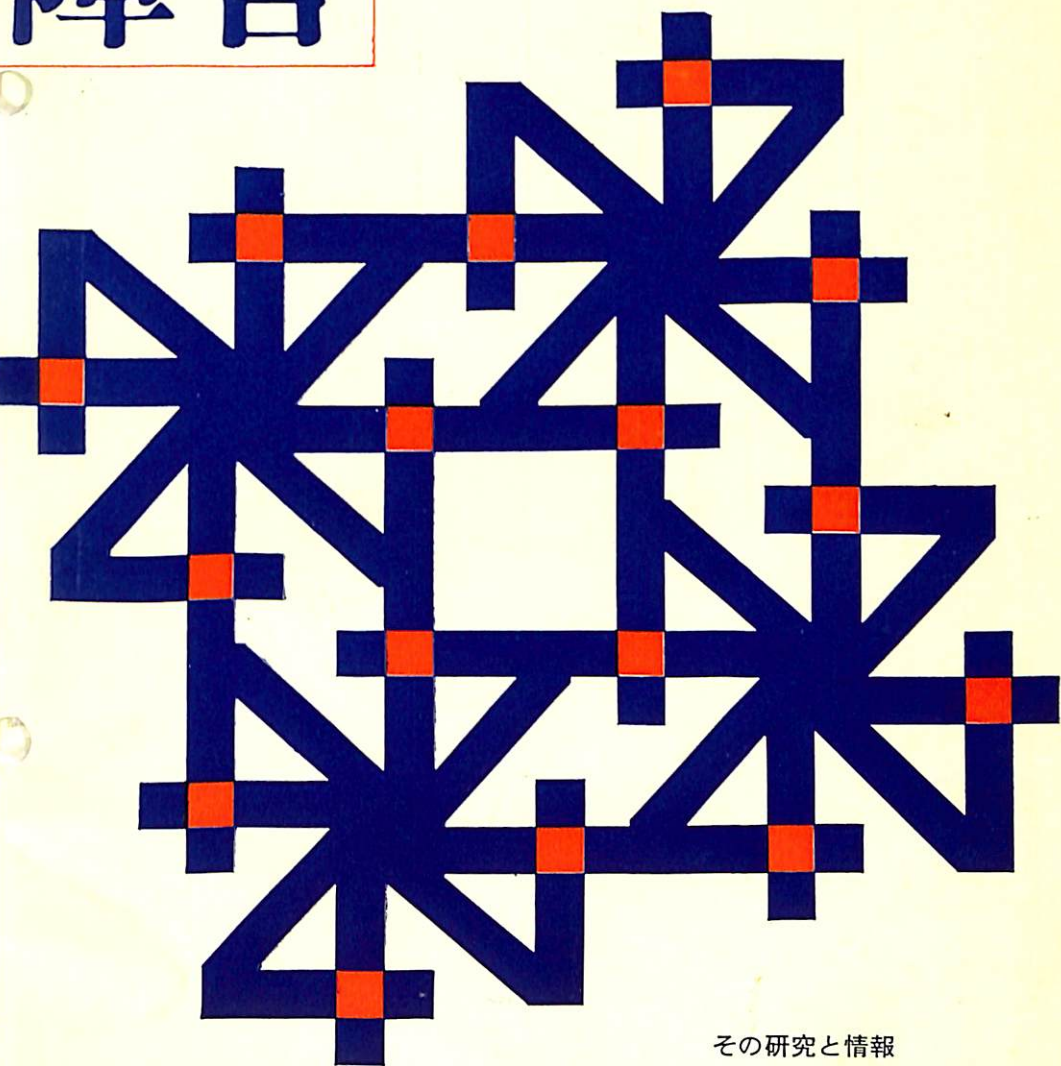


視覚 障害



その研究と情報

1978年 冬 No.36

ISSN 0385-7476

(4)

現代の教養 未来への展望

岩波新書



彼の歩んだ道

末川 博著

生い立ちから明治、大正初期の学生時代を語ったユニークな自伝。京大事件など波瀾多い学者生活の回想を付した。 二八〇円

羊の歌 わが回想(正統)

加藤周一著

羊の年に生まれ、戦争とファシズムの荒れ狂う時代に自立した精神をもちつづけた力強い個性の形成過程を語る。 各二八〇円

人間シムライツル

野村 実著

「水と原始林」の地に入り、生前のシムウアイツェル博士と生活を共にした著者の、偉人の全人格にふれためぐりあいの記録。 二八〇円

キュリー家の人々

コッ
トン著
杉捷夫訳

二代にわたってキュリー家と親交のあった著者が、キュリー家の人々の学問的業績や家庭生活の様を生きいきと描く。 二八〇円

ナポレオン

井上幸治著

歴史学者の眼と時代の雄大な展望の中で稀にみる劇的なナポレオンの生涯を描き政治と人間性の問題に新たな考察を加えた。 二八〇円

西郷隆盛

圭室諦成著

薩摩武士団の野望実現のために幕末、維新の時代を生き抜いた「庶民の英雄」のリアルな姿を描く、西郷研究の決定版。 二八〇円

福沢諭吉

小泉信三著

日本近代化の中心にあった巨人、慶応義塾の創立者福沢諭吉について、長くその名譽長として学生を教育された著者が語る。 二八〇円

ロマン・ロラン

新村 猛著

ロランの生涯は正義と愛と真実を求める人々に光をもたらす。本書は著者が、若い世代への励ましのために書いた評伝。 二八〇円

日本人の死生観 (卡)

加藤周一
ライシユ著
リフトン

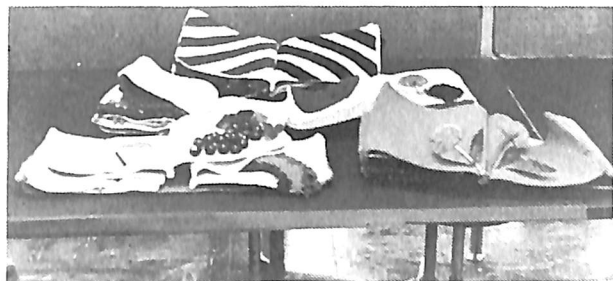
矢島翠訳 近代日本の六人の典型的人物の生と死に対する態度を、それぞれの時代潮流において考察した力作。 各二八〇円

岩波書店



東京 千代田一ツ橋
振替(東京) 6-26240

楽しい遊具・童具



織ることによって制作した

さわる絵本

「しましまのお話」

「ケム君」

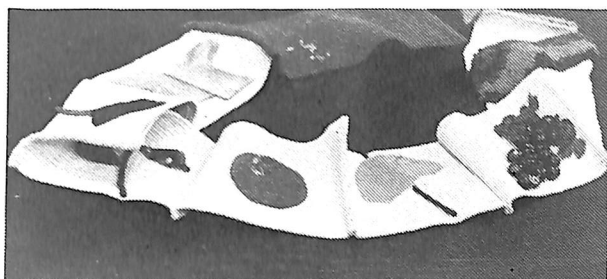
「雨の色」

「ほくだあれ」

さわる絵本「雨の色」

雨の色はどんな色かしらという
問いかけに
いろいろな物の上についた水滴
がこたえる絵本。

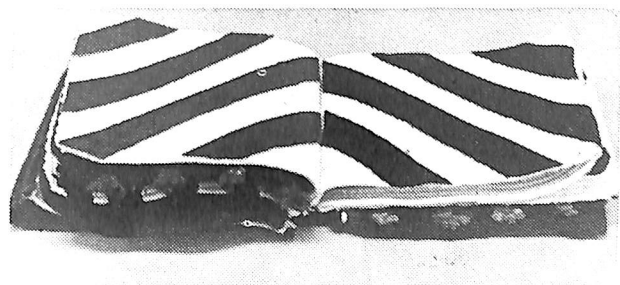
弱視児に、とても喜ばれた。
これら一連の織物の絵本は全部
スナップで組み立てられる。

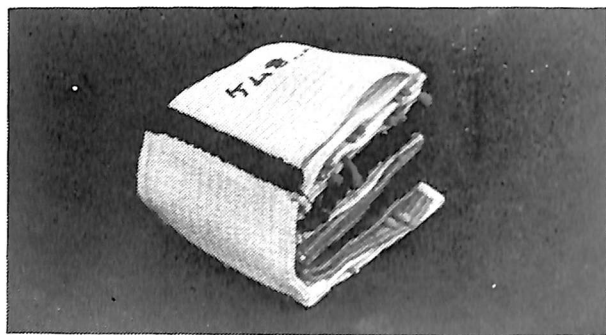


「しましまのお話」

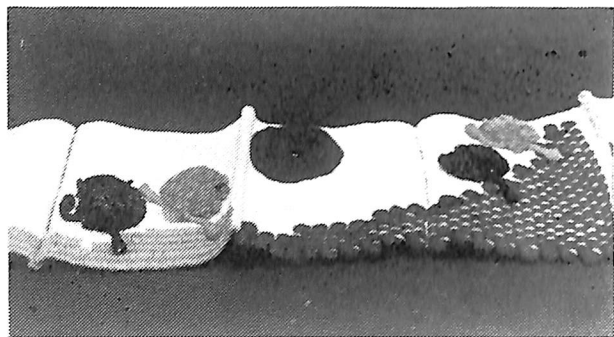
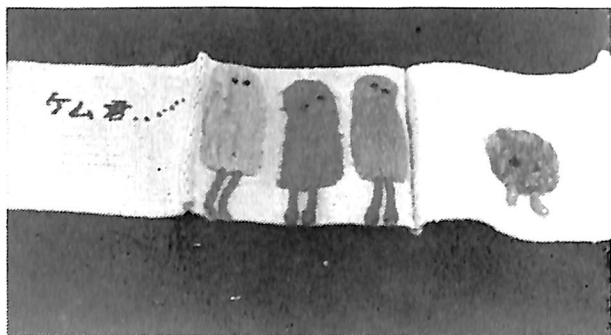
ストーリーはなく、単に横稿で
構成。

教材としても、絵本に有効では
ないかという提案として制作し
た。

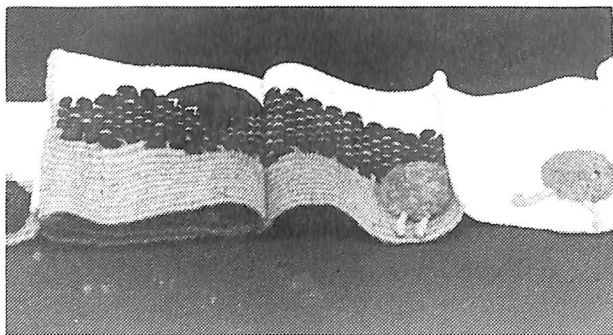


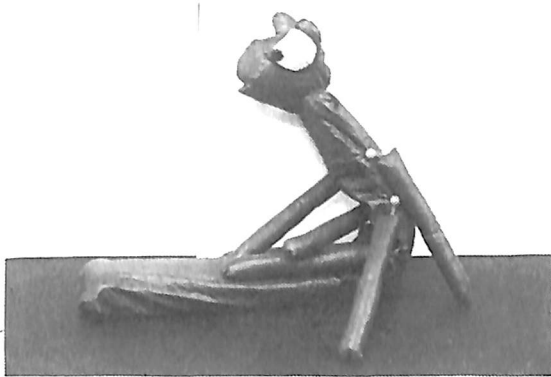


初めて織物で制作した盲児のための、さわる絵本「ケム君」。子供たちにとって、身近なお話で構成されている。



4人兄弟の末っ子のケム君の一日は、山のぼりをしたり、太陽とお話したり……太陽が、遠い山端にかくれるまで、楽しく遊びます。





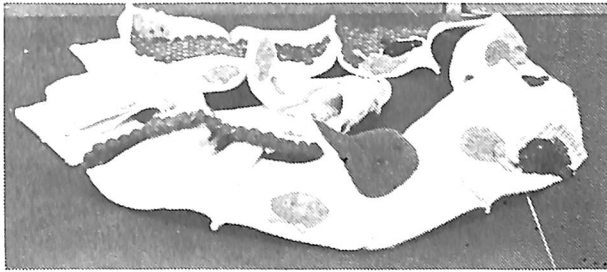
じゃら・じゃら虫

しっぽから、音がジャラ・ラ

足はブラブラ・ラ

しっぽから、音がジャラ・ジャラ・ラ

(残された感覚、触覚・聴覚を刺激する遊具をと考え制作。振ると音が出、足が全部とれるようになっていて、子供たち自身の手を動かし、ボタンをはめたり、はずしたり、単純な操作ができるようになっている)

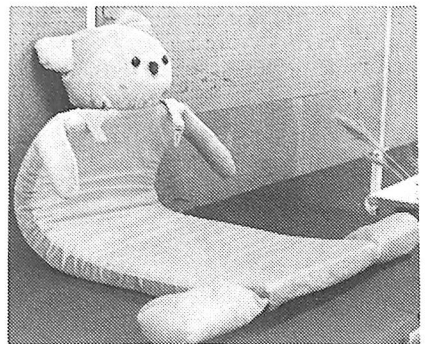
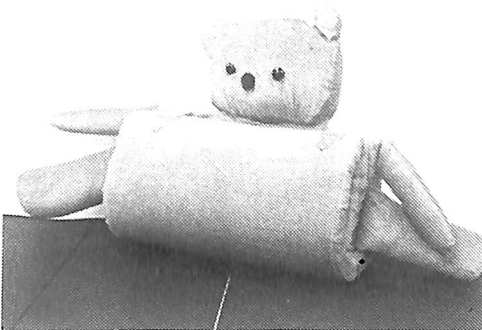


さわる絵本 ケム君

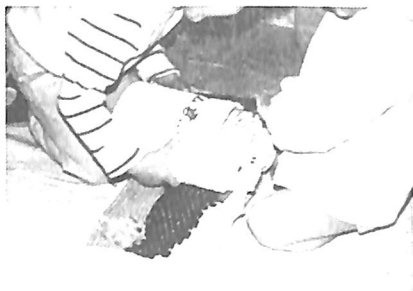
寝ころび熊さん

熊さんのおなかはベッタンコ

クルクルまいて できあがり



弱視児・盲児の体の動きは遊びにおいても少ないと思われる。そこで、子供たちのからだ全体を動かすように意図して制作された遊具・童具が必要である。そういう考えのもとに試作。



さわる絵本「ケム君」を手でさわってみるだけでなく自分の体に巻きつけたり、ひっぱったりと、いろいろな遊びを、自分たちで作りだしてゆく子供たち。



目 次

1978年 冬 No.36

2 ページ評論	高倉 幸蔵	2
重度重複障害児 S. S. の教育	菅原 武威	4
重複盲児の教育 Mちゃんの実践を通して	運天恒子、山城初子	10
ある重複障害児の指導	福本 康子	17
施設をたずねて 都立小平福祉園		22
自立のために(5)	アン・イードン	25
イギリスの募金活動	池田伊律子	35
あの人この人 信念の人 芹沢勝助教授		41
普通幼稚園に就園する盲幼児の指導(8)	香川すみ子	44
インフォメーション・コーナー		51
内外文献		55
編集後記		61

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

近年わが国における視覚障害者の失明原因は、視覚障害児はもちろん、成人の失明者においても、ペーチェット病、糖尿病等の全身病が多く、重複障害をとまなうものが著しい傾向にあります。

文部省が昭和49年5月実施した全国公立盲学校小・中学部における在籍児童・生徒の実態調査によれば、71校の総数は3,716人であり、そのうち視覚障害に加えて、精神発達遅滞、言語障害、病弱・虚弱、情緒障害、肢体不自由、聴覚障害など、他の障害をあわせもつ重複障害児の数は2,264人というおどろくべき数があげられています。したがって、これらの生徒の教育、卒業後の進路、ならびにその福祉の対策があらためて問われています。この実状から本号においては、学校ならびに施設にあって日夜、重複障害児・者の指導のために、とりくまれている皆さんの参考になればと思い、これら生徒の指導の実践的問題についてとりあげてみました。

なお、外国文献の翻訳「自立のために」は、本号をもって終わることとなりました。お力添えをいただいていた大沼先生に厚く感謝申しあげます。今後の外国文献の翻訳紹介は、読者皆様からのご希望、ご意見をうけたまわり、よりよき翻訳紹介を継続したいと思っておりますので、お聞かせいただければ幸いです。

(松井新二郎)

視 覚 障 害 1978年 冬 №36

年間購読料 1,500円 (送料とも)

発行日 1978年1月1日

発行者 本 間 一 夫

編集者 松井 新二郎

発行所 日本盲人福祉研究会

〒532 大阪市淀川区塚本3丁目12番
6-301

電話 (06) 309-2100

振替口座 大 阪 4 0 2 7 0

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電話 (624) 6111番 (代表)

協賛団体 日本点字図書館